

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 19 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22530818

研究課題名(和文) オールタナティブ教育における「稽古」の思想と「宗教性・精神性」の教育人間学的解明

研究課題名(英文) The problem of 'spirituality' through the alternative educations and the idea of 'keiko, training, exercise and expertise'

研究代表者

西平 直(Nishihira, Tadashi)

京都大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90228205

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：オールタナティブ教育を「稽古」の視点から検討し「宗教性・精神性」の問題を研究した。フィールド調査として、1)カトリック修道院における参与観察を継続して行い、その養成システムについて研究した。2)三年連続してブータン王国への調査を行い、その研究成果の一部は研究書の一部として出版される予定である。思想研究としては、以下の三点を発表した。西平 直『無心のダイナミズム - しなやかさの系譜』(岩波書店、2014年)。西平 直編『ケアと人間』(ミネルヴァ書房、2013年)、鈴木忠+西平 直『生涯発達とライフサイクル』(東京大学出版会、2014年)。

研究成果の概要(英文)：This project investigated the problem of 'Spirituality' through the alternative educations and the idea of 'Keiko (training, exercise and expertise)'. As the field research: 1) the participant observation of the catholic monastery was carried out and the training system of the sisters was investigated. 2) The Bhutan research has been carried out and the result of this research will be published soon. As the philosophical investigation: three books were published. 3) As a Japanese spirituality, the idea of 'Mushin (No-mind)' was investigated in: Nishihira, T. "Dynamism of No-mind", Iwanami, 2014. 4) The problem of the human-care was investigated in: Nishihira, T. (eds) "Care and Human-life", Minerva-shobo, 2013. 5) The problem of Human Lifecycle was investigated in: Suzuki, T. +Nishihira, T. "Life span Development and the lifecycle", University of Tokyo Press, 2014.

研究分野：教育人間学、死生学、哲学

キーワード：スピリチュアリティ ケア 無心 修道院 ブータン 養成 ライフサイクル

1. 研究開始当初の背景

本研究以前、報告者は、シュタイナー教育を焦点に「現代社会におけるスピリチュアルな共同体の探究」について以下の課題をもっていた。

(1)シュタイナー教育は「新たな共同体を求めた運動」として総合的に理解されなければならないこと。

(2)「人智学共同体」を現代社会に対するオルタナティブとしての新たな共同体の模索と理解し、現代社会におけるスピリチュアリティ探究の一形態として理解すること。

(3)「スピリチュアリティ」概念の乱用が確認され、「宗教性・精神性」という用語で問題を検討すべきこと。

(4)理論研究としては、「稽古」概念に注目し、芸道思想との関連を吟味する中で世阿弥の『伝書』に至り、身体知の伝達、精神的支柱の育成、共同体への配慮などを含んだ、世代継承に関する総合的な検討を行うこと。

(5)上記の二つの作業(聞き取り調査と思想研究)から、本研究は必然的に要請された。「オルタナティブ教育」に場面を限定し、「稽古」の思想との同質性と異質性を確認し、その実践的な困難を確認すること。

「宗教性・精神性」の「世代継承(伝達・習得)」の工夫、およびその実践的困難を確認すること。その作業を通して、関連する諸領域の相互対話を活性化させることである。

2. 研究の目的

本研究は「オルタナティブ教育」の思想的研究である。オルタナティブ教育を「稽古」の思想の視点から検討し、「宗教性・精神性」の視点から検討する。言い換えれば、「稽古」の思想の現代的意味をオルタナティブ教育の中で問い直し、「宗教性・精神性(スピリチュアリティ)」問題をオルタナティブ教育の中で再検討する試みでもある。

研究の全体像は三つの視点の交叉領域で行われる。

(1)「ホリスティック教育」の問題。多様な「オルタナティブ教育」の試みの中でも、ホリスティック教育の流れに注目すること。

(2)「稽古」の問題。「オルタナティブ教育」の思想は、日本の「稽古」の思想といかなる点で共通し、いかなる点で位相を異にするのか。その視点から一方で稽古の思想を読み直し、他方でホリスティック教育の現場を観察する。またわざの伝授、身体知の伝達など、稽古の場面における「宗教性・精神性」の「伝達・育成」についても検討を加えること。

(3)「宗教性・精神性」の問題。「現代社会におけるスピリチュアリティ」一般ではなく、「宗教性・精神性」に議論の焦点を絞る。しかも「世代継承(伝達・育成)」の視点か

ら光をあてる。

具体的な課題は以下になる。「宗教教育」の問題。学校教育の中で期待される宗教教育を「宗教性・精神性」の「伝達・育成」の問題として検討する。「修道院教育・寺院教育」の問題。今日、伝統的な宗教の中で、次世代育成はいかなる困難を抱えているのか。その「伝達・育成」を問題にする。

「スピリチュアル・ケア」の問題。看護・医療現場においてスピリチュアル・ケアの議論が続いている。その議論を「宗教性・精神性」の「伝達・育成」の問題として検討する。

3. 研究の方法

研究は「参与観察による聞き取り調査」と「文献研究」を同時並行する仕方で行われる。

(1)一方では、これまで培ってきた人間関係を基盤として聞き取り調査を深める。

京都の「京田辺シュタイナー学校」においてエポック授業を行う。また神奈川県藤野にある「学校法人シュタイナー学園」の活動について継続的に参与観察する。

北海道「人智学共同体ひびきの村」を訪問し、共同生活を行っている若者たちから、聞き取り調査を行う。

川手鷹彦氏の協力を得て、氏の主催する治癒教育の現場を訪問する。東京品川、沖縄県与那原、インドネシアのバリ島など、各地で活躍しておられる川手氏の実践を通して、演出家でもある同氏の実践と「稽古の思想」との関連を問い「宗教性・精神性」の伝達がいかに工夫されているのか調査する。

修道院教育における「宗教性・精神性」の検討を行う。これまでの研究によって「レデンプトリスチン修道院」との親密な関係が構築されている。

(2)思想研究としては、「稽古」に関する思想研究を継続し、関連領域に関する文献研究を積み重ねる。その往復作業の中で理論枠組みを構築してゆく。また「宗教性・精神性」概念の検討も継続的に行う。

4. 研究成果

オルタナティブ教育を「稽古」の思想の視点から検討し「宗教性・精神性」の視点から問い直す中で、研究は「オルタナティブ教育」にとどまらず、より広い意味で、人間形成における「宗教性・精神性」の意味を問い直すことになり、また聞き取り調査のフィールドも修道院やブータンという、当初の予定にはなかった領域に広がることになった。

(1)海外におけるフィールド調査として、三年連続して、ブータン王国への調査を行った。急速に変化する社会の中で、近代学校の制度がいかなる意味をもつのか。若者たちは何を望んでいるのか。調査の中で興味深い一人の青年と出会い、その青年へのインタビュー

ーを継続的に続けている。今後も調査を継続する予定であり、またその成果は出版の予定である。西平直「現代ブータンの新しい世代 - ある青年の挑戦」、杉本均編『ブータン王国の教育変容 近代化と「幸福」のゆくえ』（岩波書店、2015年予定）。

なお、並行して「三菱財団・人文科学研究助成金（急速に都市化・近代化するブータン社会における伝統的習俗・試験制度・若者文化 - ブータンの若者たち（10代・20代）への聞き取り調査、研究代表者、西平直、170万円、平成24年10月 - 26年9月）」を組織し、聞き取り調査を積み重ねた。その過程でブータン初の精神科医 Dr. Chemcho Dorji 氏から「尼僧」の存在を示唆されたことは、今後の研究に繋がってゆく。

（2）カトリック修道院における参与観察を継続して行った。修道院（レデンプトリスチン女子修道院）の参与観察は十二年間継続し、祈り、オールタナティブな共同体、後継者の育成など多様な論点について検討してきた。西平直『誕生のインファンティア - 生まれてきた不思議・死んでゆく不思議・生まれてこなかった不思議』（みすず書房、近刊）などは、修道院への参与観察の中で着想したものである。

なお、ブータン調査、修道院調査共に、継続的に行う予定であり、既に内定した次期科研の中で実施される。研究代表者・西平直「ケアとスピリチュアリティの教育人間学的解明 女性宗教者への聞き取り調査を中心に」（平成27 - 31年度）

（3）文献研究としては、以下の成果を発表した。

西平直『無心のダイナミズム - しなやかさの系譜』（岩波書店、2014年）。日本のスピリチュアリティを代表する「無心の思想」をめぐる思想研究の成果である。また「日本的なスピリチュアルケア」の問題を、西平直「無心とスピリチュアリティ - 日本的なスピリチュアルケアのために」（窪寺俊之編著『スピリチュアルコミュニケーション - スピリチュアルケアを学ぶ3』聖学院大学出版会、2013年3月、123 - 152頁）としてまとめ、教育用DVD「vol. 9 スピリチュアリティと無心」（『スピリチュアルケアを学ぶ、全12巻』、医学映像教育センター、2014）を作成（執筆・出演）した。

西平直編『ケアと人間』（ミネルヴァ書房、2013年）。ケアをめぐる総合的研究の成果である。なお、以下の研究はその一環である。西平直「ジェネレイショナル・サイクル - 先行世代との円環・後続世代との連関」『円環する教育のコラボレーション - フィールドの教育の科学に向かって』（京都大学教育学研究科、教育実践コラボレーションセンター、報告集、2013年3月）80-92頁。

鈴木忠 + 西平直『生涯発達とライフサイ

クル』（東京大学出版会、2014年）。ライフサイクルの総合的研究の成果であり、心理学研究の鈴木忠氏との共同研究である。ライフサイクル研究と「稽古」研究、また「精神性・宗教性」の関連を、エリック・エリクソンの思想を基盤に検討するための基礎研究である。

'Zeami's Philosophy of Exercise and Expertise, in: (ed.) P. Standish & N. Saito, Education and the Kyoto School of Philosophy: Pedagogy for Human Transformation, Springer, 2012, pp.147-156。世阿弥の稽古をめぐる思想を解明した。この問題については、以下の論文も関連する。世阿弥『伝書』における稽古の思想 - 稽古における序破急』（実存思想協会編『道・身心・修行』、実存思想論集、第二期21号、2014年）33 - 60頁。

Subjectivity of 'Mu-shin' (No-mind-ness): Zen Philosophy as interpreted by Toshihiko Izutsu, "Journal of Integrated Creative Studies", International Center for Integrated Creative Studies, March, 2015。無心の思想を、新しい主体性の視点から解きほぐしたものである。この論点は、以下の論文とも関連する。「無心とスピリチュアリティ - 日本的なスピリチュアルケアのために」窪寺俊之編著『スピリチュアルコミュニケーション - スピリチュアルケアを学ぶ3』（聖学院大学出版会、2013年3月）123 - 152頁。

'Bewusstsein ohne Bewusstsein' (Mushin): Eine Betrachtung von Bildungsprozessen aus Sicht der Zen-Philosophie. Invited Lecture Technische Universität Dortmund, Mittwoch 29. Oktober 2014。ドルトムント工科大学における招待講演であり、稽古の思想をドイツ語のBildung概念と重ねて報告し、続けて、ゼミナールにおいて議論したものである。この研究については、以下の論文も関連する。「ビルドゥングとビオグラフィ - あるいは、Bildungstheoretische Biographieforschung」、L. ヴィガー + 山名淳編『教育における承認と人間形成』（北大路書房、2014年）71-78頁。

（4）今後の課題については、すべて次期の科研に引き継がれる。「ケアとスピリチュアリティの教育人間学的解明 女性宗教者への聞き取り調査を中心に」（平成27 - 31年度）の目標は、以下の通りである。

ケアとスピリチュアリティの関連を、その次世代育成の視点を中心として、教育人間学的に解明する。「女性宗教者」への聞き取り調査（カトリック修道院、ブータン王国の尼僧）を行う。スピリチュアルケア学会を中心とした「スピリチュアルケア養成課程」の調査を行う。「ケア」と「スピリチュアリティ」が重なる思想領域の哲学的な検討を

行う。以上の課題を通して、ケアとスピリチュアリティの関連を、一方では原点に遡り、他方ではアクチュアルな現実の課題の中で、総合的に解明することを目的とする。

具体的重要なポイントは、以下の通りである。今日のケア研究は「女性に限定されないケア」を追究してきた。他方、今日の「スピリチュアリティ」研究は「宗教者に限定されないスピリチュアリティ」を追究してきた。この研究は、逆に、一度、原点に立ち戻り「女性宗教者によって担われるケアとスピリチュアリティ」に焦点を当てる。もちろんスピリチュアルケアの本質を女性宗教者に見るためではなく、原風景を浮かび上がらせることによって、その視点から今日のアクチュアルな課題を整理し、問い直すとする。

また、「ケア研究」から見た時 福祉・看護・臨床心理では対応できない哲学的・宗教的・実存的な（正解のない）問いに「寄り添う」特殊性を解明する試みである。他方「スピリチュアリティ研究」から見た時、「ケアの育成」という課題の中で浮かび上がってくる「スピリチュアリティ」の研究ということになる。「スピリチュアルケア養成」の実際的な要請に対して、また「スピリチュアルケア学会」の学問的課題に対して答えるものとなることが予想される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 10 件)

1、(単著) 西平直「無心とスピリチュアリティ - 日本のスピリチュアルケアのために」窪寺俊之編著『スピリチュアルコミュニケーション - スピリチュアルケアを学ぶ 3』(聖学院大学出版会、2013年3月) 123 - 152 頁。

2、(単著) 西平直「ジェネレイショナル・サイクル - 先行世代との円環・後続世代との連関」『円環する教育のコラボレーション - フィールドの教育の科学に向かって』(京都大学教育学研究科、教育実践コラボレーションセンター、報告集、2013年3月)

3、(単著) 西平直「ケアと云わないケア - ケア論が私たちに突き付けた問い」(西平直編『ケア講座・第三巻、ケアと人間』) ミネルヴァ書房、2013年、1 - 23 頁

4、(単著) 西平直「臨床の知・科学の知・書物の知 - ブラインドウォークの体験から」(『日本仏教教育学研究』第20号、2012年) 7 - 20 頁。

5、(単著) 西平直「世代連鎖とアイデンティティ - ジェネレイショナル・サイクルの中で」『現代と親鸞』第24号(親鸞仏教センター、2012年) 79 - 102 頁

6、(単著) Tadashi Nishihira, Subjectivity of 'Mu-shin' (No-mind-ness): Zen

Philosophy as interpreted by Toshihiko Izutsu, in: Culture and Subjectivity in Translation, The Global COE Programme, Revitalizing Education for Dynamic Hearts and Minds, Kyoto University, 2012, pp. 89 - 97

7、(単著) 西平直「ブータンと「有り難い」 - 感謝の心と畏敬の念とをつなぐもの」(『児童心理』No.946、2012年3月) 108 - 113 頁。

8、(単著) 西平直「無心の誘惑・無心の強迫 - 無心・信仰・スピリチュアリティ」『宗教研究』363号、(日本宗教学会) 2010年、42 - 64 頁。

9、(単著) 西平直「世阿弥『伝書』の根底に潜む逆説的ダイナミズム - 伝書理解のための補助線」『能と狂言』第八号、2010年、93 - 99 頁。

10、(単著) 西平直「「臨床の知」と「書物の知」 - 世阿弥『伝書』からの問い」、矢野智司・桑原知子編、『臨床の知 - 臨床心理学と教育人間学からの問い』(創元社、2010年) 17 - 33 頁。

〔講演・学会発表〕(計 9 件)

1、(招待講演) 西平直 Dortmund Gambrinus Fellowship, Vortrag und Seminar, „Bewusstsein ohne Bewusstsein: Eine Betrachtung von Bildungsprozessen aus Sicht der Zen-Philosophie“ Technische Universität Dortmund, Deutschland, 29-31, October, 2014

2、(招待講演) 西平直「稽古のしなやかさ - 世阿弥『伝書』における稽古の仕掛け」全国スクールリーダー養成研修 京都大学、2014年8月18日

3、(招待講演) 西平直「無心は反倫理か - 無心における「他者」の問題」霊性研究フォーラム・第二回研究大会 同志社大学、2014年11月17日

4、(招待講演) 西平直「ライフヒストリー、アイデンティティ、ジェネレイショナル・サイクル - E.H.エリクソンの地平から」神戸大学アカデミックデー、2014年11月22日

5、(学会シンポジウム) 西平直「世阿弥「離見の見」の地平 - 視点が入れ替わること・視点が溶け去ること」発達心理学会、自主シンポジウム「わかる」ことと視点のダイナミズム(パネリスト) 京都大学 2014年3月23日

6、(招待講演) 西平直「スピリチュアルケアと無心 - 「無心になされるケア」のために」NPO 法人 日本スピリチュアルケアワーカー協会主催、公開講座、長浜ドーム宿泊研修館 2014年6月14日

7、(招待講演) 西平直「世阿弥の稽古論」実存思想協会、東京大学文学部、2013年6月22日

8、(学会シンポジウム) 西平直「E.H.エリ

クソン beyond identity の思想』、日本心理学会第 78 回大会、公募シンポジウム、同志社大学、2014 年 9 月 10 日

9、(招待講演)西平直「共生とアイデンティティ 折り合いをつけるということ」上智人間学会、第 42 回大会、上智大学、2014 年 8 月 29 日

〔図書〕(計 10 件)

1、(著作・単著)西平直『無心のダイナミズム』(岩波現代全書、2014 年)

2、(著作・共著)鈴木忠・西平直『生涯発達とライフサイクル』(東京大学出版会、2014 年)

3、(著作・単著)西平直『誕生のインファンティア - 生まれてきた不思議・死んでゆく不思議・生まれてこなかった不思議』(みすず書房、2015 年 4 月)

4、(教育用 DVD、執筆・出演)西平直「vol. 9 スピリチュアリティと無心」『スピリチュアルケアを学ぶ、全 12 巻』(医学映像教育センター、2014)

5、(分担執筆・単著)西平直「アイデンティティにおける人格的活力(徳) - 思想家エリクソンの理論地平」(鑪幹八郎監修『アイデンティティ研究ハンドブック』(ナカニシヤ出版、2014 年)、149 - 158 頁)

6、(分担執筆・単著)西平直「ビルドゥングとビオグラフィ - Bildungstheoretische Biographieforschung」、ヴィガー + 山名編『教育における承認と人間形成』(北大路書房、2014 年)、71-78 頁

7、(編著者)西平直『ケア講座・第三巻・ケアと人間』(ミネルヴァ書房、2013 年)

12、(分担執筆・単著)西平直「めぐる時間・めぐる人生 - 「輪廻とは異なるめぐる時間」の諸相」(岩波講座『日本の思想、第五巻』、岩波書店、2013 年)、149 - 175 頁

8、(分担執筆・単著) Tadashi Nishihira, Zeami 's Philosophy of Exercise and Expertise, in: (ed.) P. Standish & N. Saito, Education and the Kyoto School of Philosophy: Pedagogy for Human Transformation, Springer, 2012, pp.147-156

9、(論文・単著)西平直「教育人間学の作法 - 「教育人間学にはディシプリンがない」をめぐって」田中毎実編『教育人間学』(東京大学出版会、2012 年) 135 - 163 頁

10、(論文・単著)西平直「『死の教育』からの問い - デス・エデュケーションの中の生命倫理学」『シリーズ生命倫理学、4、終末期医療』(丸善、2012 年) 143 - 159 頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西平直 (Nishihira, Tadashi)

京都大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：90228205

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：